

カキの大苗育苗用栽培容器と用土					
[要約] カキ「富有」は、不織布底の不織布製容器や土嚢を利用して、コンテナ栽培用土（赤土4：ピート4：ボラ土2）を用い2年間育苗した大苗を定植すると、定植2年目から収穫できる。					
担当部署	果樹苗木分場・無病苗育成研究室			連絡先	09437-2-2243
対象作目	果樹	専門項目	栽培	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

カキは接ぎ木一年生苗を定植すると、結果までに4～5年を要する。この未結果の期間は収益が見込めないことから、経営改善のための品種更新の阻害要因の一つとなっている。結果までの年限を短縮することができる大苗育苗技術は、カンキツやブドウでは確立しているものの、カキでは未確立である。

そこで、育苗に適する容器や用土の配合割合について検討し、早期成園化を可能にするカキの大苗育苗技術を確立する。（要望機関名：生産流通課（H9））

[成果の内容・特徴]

- 1．大苗育苗に用いる用土は、赤土4：ピート4：ボラ土2の割合で混合したものが根量が増加する（表1）。
- 2．カキの大苗育苗の容器は、不織布底の不織布製容器や土嚢が適する。これらの容器で2年間育苗した大苗を定植すると、定植2年目から収穫できる。ビニル底の不織布製容器は樹冠は大きくなるが、不織布底の不織布製容器や土嚢に比べ収量が少ない（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．カキの大苗育苗による早期成園化技術として利用できる。
- 2．栽培容器を用いた育苗では、かん水施設を設置して適宜かん水を行う。

[具体的データ]

表1 用土の配合割合及び容器と根量

用土の配合割合 (4:4:2)	容器	根量 (g)			
		大	中	小	合計
赤土 : ピート : ポラス	土嚢	23.1	17.8	62.3	103.2
	不織布	13.4	16.1	75.9	107.5
畑土 : ピート : ポラス	土嚢	4.4	5.0	17.1	26.5
	不織布	9.3	17.9	68.0	95.2
畑土 : ハーク : ポラス	土嚢	14.4	16.9	32.7	64.0
	不織布	18.9	9.9	44.1	72.9
畑土 : ピート : ハーライト	土嚢	15.4	18.4	33.4	67.2
	不織布	7.7	12.4	28.2	48.3
畑土 : ハーク : ハーライト	土嚢	4.5	17.2	29.1	50.8
	不織布	9.3	9.4	29.5	48.2
地植		8.3	12.6	17.0	37.9

注) 1. 根の大きさは大が直径5mm以上、中が2~5mm、小が2mm未満

2. 土量は20ℓ

表2 容器の種類と定植2年後の樹冠、収穫量および果実品質(2年育苗)

容器	育苗 期間	樹冠		1樹収穫量		果実品質		
		樹高 cm	樹幅 cm	果数 個	重量 kg	果重 g	果皮色	糖度 %
土嚢	2年	159	121	16.2	3.5	232	5.0	15.9
不織布(不織布底)	2	152	130	17.8	4.1	248	5.3	16.6
不織布(ピール底)	2	194	137	6.6	1.6	248	5.2	17.2

注) 1. 果実品質は5果の平均値で、果皮色は赤道部のカラーチャート値。

2. 用土には赤土4 : ピート4 : ポラス2の割合で混合したものを使用。

[その他]

研究課題名 : カキの大苗育苗による結果年限短縮

予算区分 : 経常

研究期間 : 平成13年度 (平成9~13年)

研究担当者 : 能塚一徳、栗原実、鶴丈和